

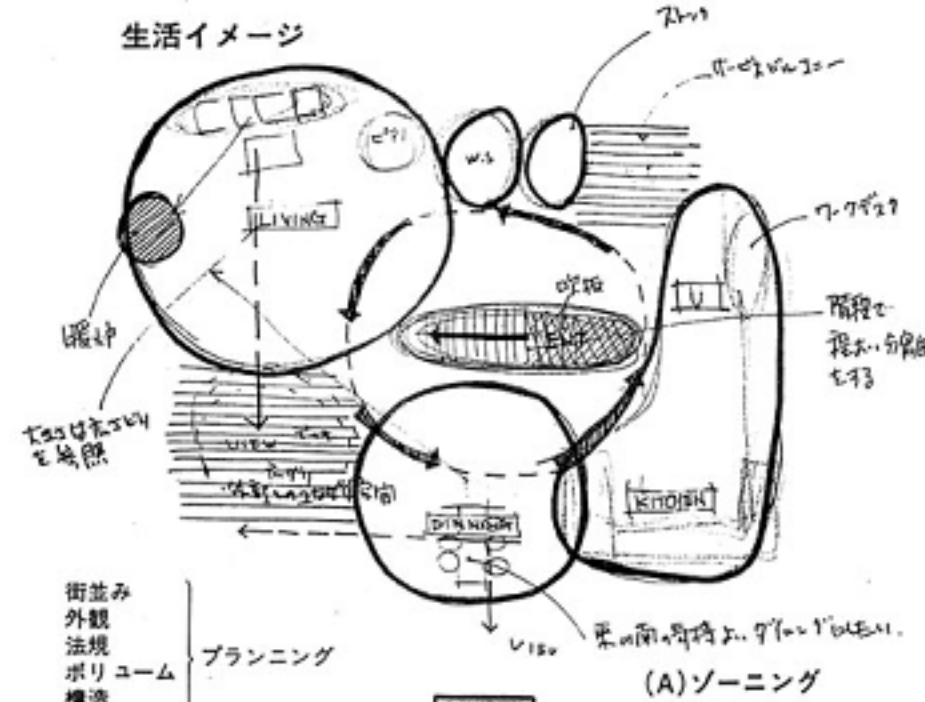
イメージを具体化して住宅を創る

図・文/本多和夫

今月号は、いよいよ住宅を創ってみます。114月号で各部屋の広さどりをし、617月号ではそれらの部屋のつながりを考え、ゾーニングと動線を学んできました。810月号は実例をもとにして住環境や家族構成が異なれば、住まい方も違ってくることを具体的に学んできました。今回は全体としての「住まい」、自分のライフスタイルに決めたイメージを具体化する作業を学んでいきます。

(一) 内から間取る

(A) ゾーニング
生活のイメージが決まったら最初にゾー

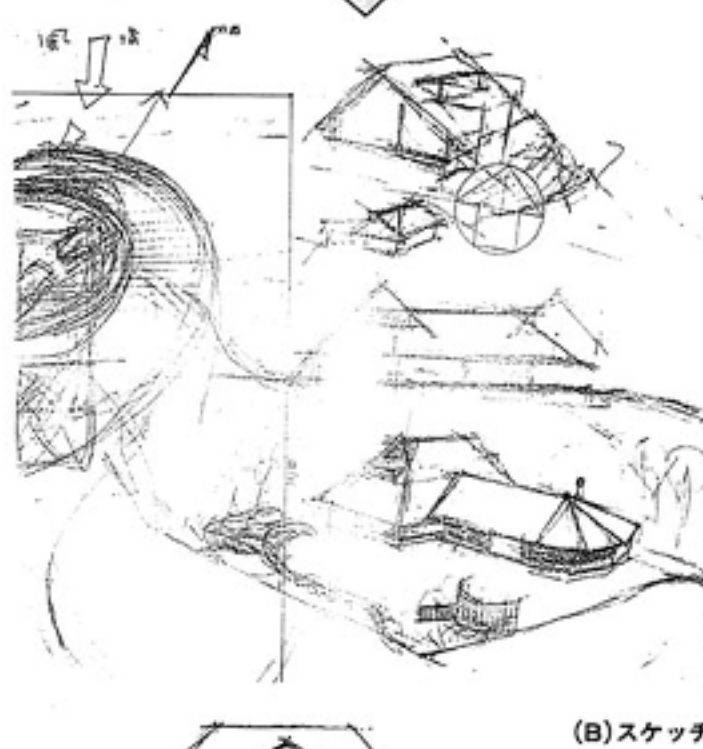
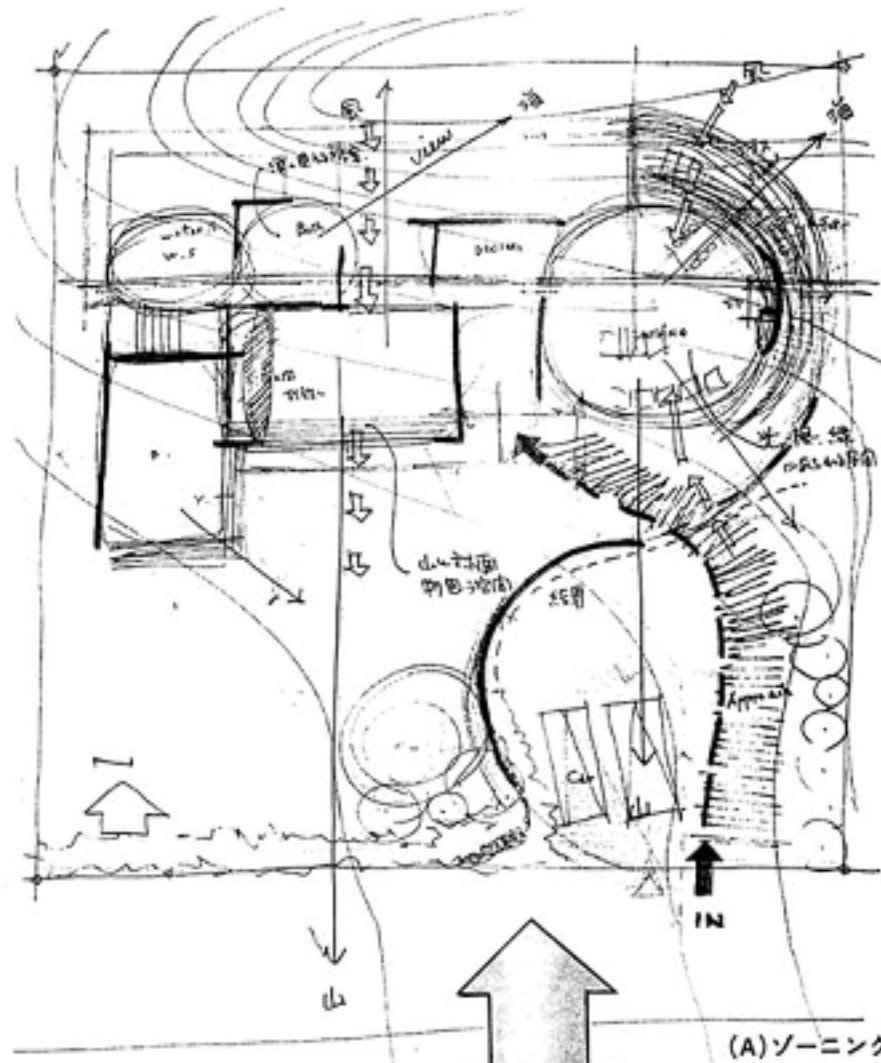
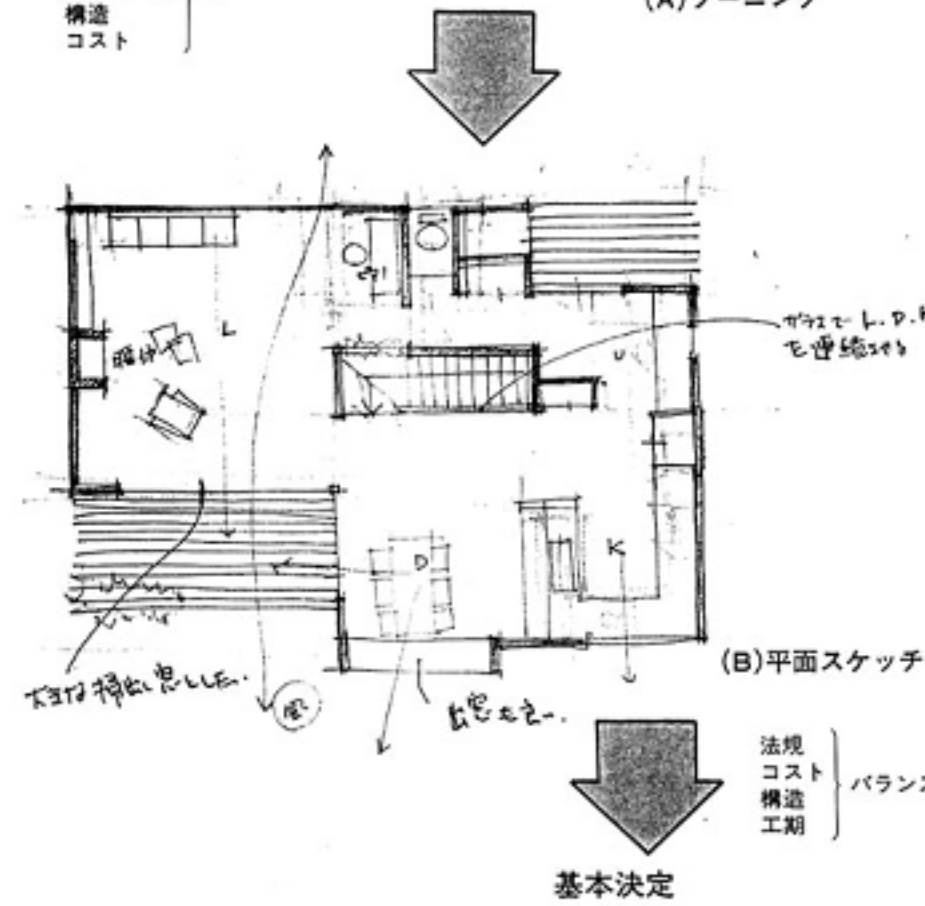


ーニングをします。だいたいボリュームを敷地の中に入れていくのです。居間のゾーン・台所のゾーン・食堂ゾーンを玄関・水回りとの関連とを含めながら配します。この作業は前にも学びましたが、住宅にはそれぞれの家族構成や生活スタイルなどによって、様々な住まい方があります。こう住みたいという住まい手の欲求を住空間の中により多く実現していく作業です。ここでの生活ポリシーは、シンプルライフ。生活イメージは、南面した明るい居間・食堂や、自然採光・自然空調(通風)広いオープンスペースの確保です。そして広い居間で寛いだ家族

の団集、夜は暖炉で心を暖め、明日の活力の再生をします。そのために居間ゾーンに暖炉を設けると、その暖炉に面して座るソファの位置が決まってきます。

(B) 平面スケッチ

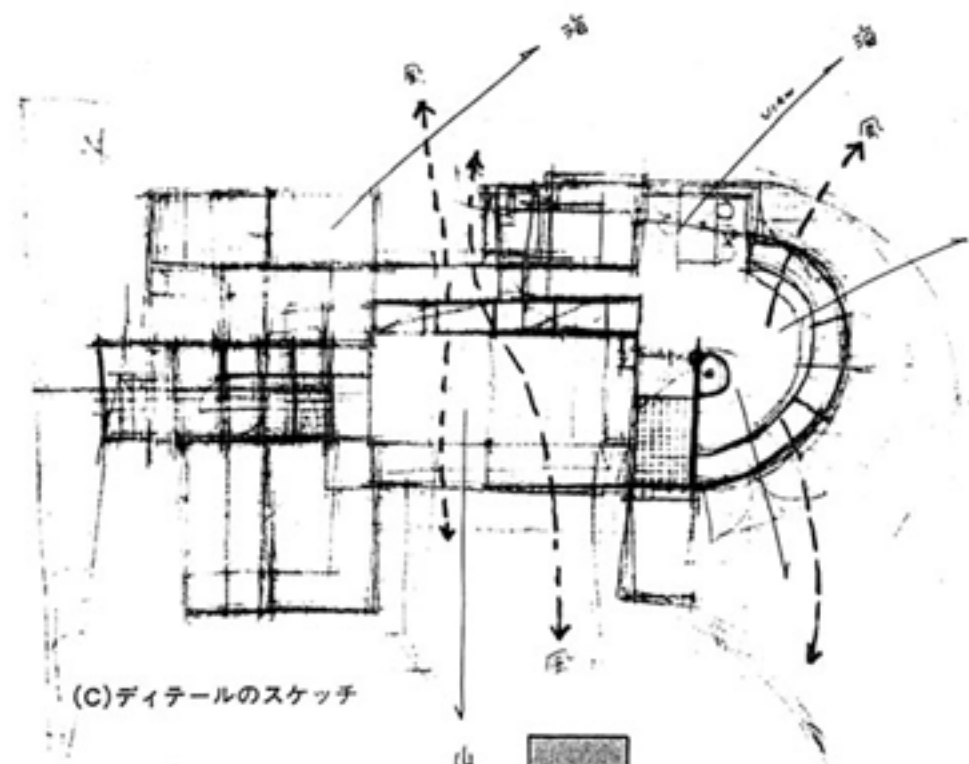
AからBに進める過程では、実際の住宅設計では、構造、建築物のプロポーション、壁面と窓の配置・近隣との相関関係を考え、また法規、工事費・街並みの調和など多くの要素をスケッチに組み込んでいきます。ここでは広さどりで学んだ快適な各々のスペースに寸法を入れて部屋の大きさを決めていきます。



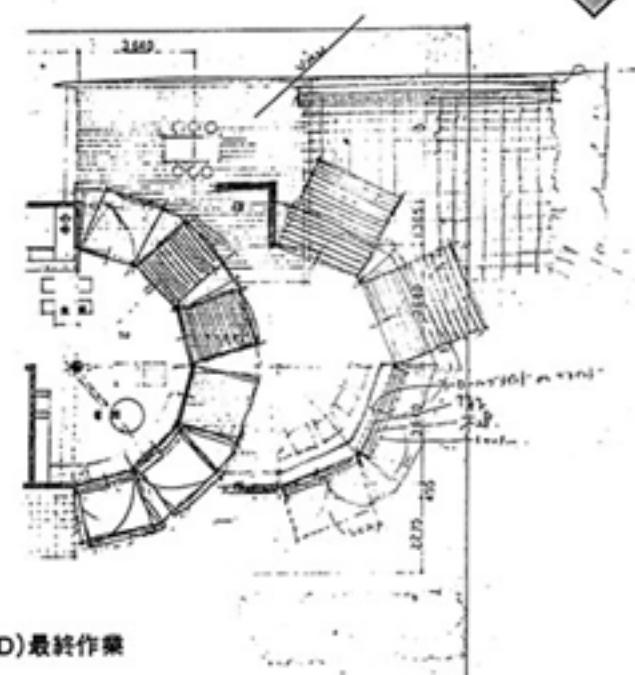
(二) 外から間取る

(A) この計画は郊外の大きな敷地での間取りを考えました。生活のイメージは夏涼しく冬暖かい風通しの良い家。高台から海を望み、南面に山を見るゆりの生活、寛げる快適な住みこちです。まずここでは、海の見える方向と山の見える方向に建物の開口を配します。その位置で敷地の高低差をいかして眺望に障害がないようなゾーニングを行います。風の通り道もその中に入れていきます。また進入路も決定します。

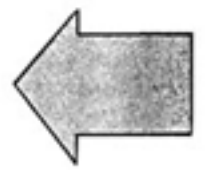
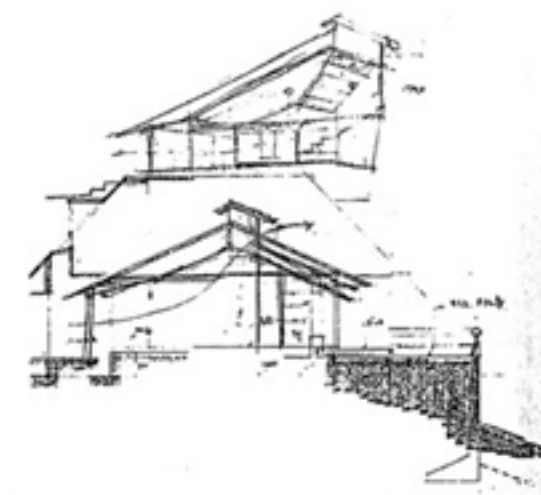




(C)ディテールのスケッチ



(D)最終作業



④ 次に環境に調和するプロポーシ
ンをスケッチします。この時には現地敷
地調査をした時の構想が大きく作用しま
す。豊かな自然環境をより魅力的に共存
させることを考えます。近隣ともバラ
ンスのあるスケールが求められます。
(C) Aで決まった軸線とゾーンを部屋
の大きさや、構造のバランス、各建物の
ディテールのスケッチをしていきます。
(D) A・B・Cの作業を煮つめて一案
完成です。

● 建築用語辞典
「エスキース」

聞き慣れない言葉ですが、設計を
する時にまず最初に使われる大切な
言葉です。元もとは、下書きを意味す
るフランス語であったものですが、
建築においては、そのイメージを具
体化する操作の技法、さらには建築
のデザインをまとめるための思考方
法などを総称して言われます。
例えば、住居について考えてみる
と、それはまだ建築基準法などの法
規に従って配慮し、必要な部屋をつ
なぎ合わせれば出来ると安易に思
われているところがあります。しか
し、それだけでは建物であるとは言
えても、「住まい」ではありません。
住居は、そこに住む人の生き方を具
現化し、快適な住まいのイメージを
形象化するところであるはずで
す。それだからこそ、建築家は建築を
依頼された時、施主の条件などを考
慮しながら、まず頭の中で着想しは
じめるのです。建築においては、着
想は形にあらわさなければなりません。
イメージを具体化してゆく、そ
の段階がエスキースです。
一般的には、スケッチや模型など
を使って、設計の構想を表現したり、
建築のデザインを結実させたりして
いきます。しかしながら、エスキース
の作法はその建築家の建築に対する
姿勢や考え方によって異なりますの
で、いろいろな方法があるようです。